

化合物半導体を用いた蛍光体開発の現状と展望

近年、結晶育成技術の発展や、量子ドットの蛍光体としての利用の進展により、国内外において、化合物半導体を母材としたシンチレータの多様化と深化が急速に進んでいます。

本シンポジウムでは、シンチレータ開発者のみならず、蛍光体分野の専門家も交え、最新の成果をご紹介いただき、シナジーを生む契機を提供します。放射線計測のみならず、蛍光体分野においても非常にホットな分野について俯瞰的な議論を提供します。この分野の急速な進展と広がりを実感しに、ぜひお越しく下さい！！

【招待講演（アルファベット順、敬称略）】

阿部貴美（岩手大学）

水熱合成法を用いたZnO単結晶の育成とシンチレーション特性の評価

磯由樹（慶応義塾大学）

量子ドット蛍光体開発の現状と展望

河野直樹（秋田大学）

量子ナノ構造を有する有機無機ハイブリッド化合物を利用したシンチレータ開発

木村大海（産業技術総合研究所）

SPS法によるZnSシンチレータの開発

佃論志（静岡理科大学）

Giant shell量子ドットの合成と光学特性

柳田健之（奈良先端科学技術大学院大学）

GaNおよび β -Ga₂O₃を用いたシンチレータ開発

Dongsheng Yuan（物質材料研究機構）

Single-crystal Scintillator Cs₃Cu₂I₅: Design, Crystal Growth, Characterization, and Scintillation Properties